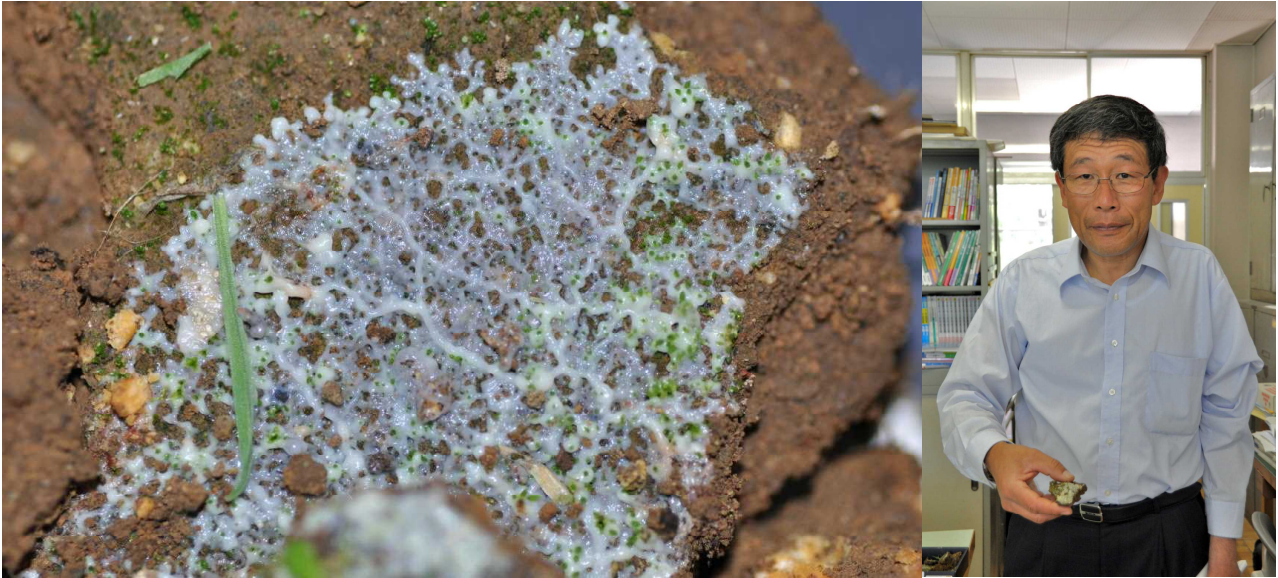


巨大なアメーバ・粘菌



6月10日朝8時、校長先生が珍しい生き物を持ってきてくださった。「粘菌」である。ご自宅の庭で採取されたとのことである。粘菌は朽ち木や落ち葉などで見つけることができ、世界中に分布しているといわれているが、その一生や生態はまさにユニークで謎の宝庫であるのだ。

「粘菌」は**変形菌**とも呼ばれる生き物で、カビやキノコとよく似た「**胞子**」で繁殖する。この胞子が発芽すると、「粘菌アメーバ」(大きさ 10μ)が誕生し、細菌などをエサにどんどん増殖する。「粘菌アメーバ」には性別があり、性が異なる相手と出会うと合体し(=接合)、性質の異なる「変形体」へと変化する。

「**変形体**」もアメーバ状の体をしていて、周りにいる細菌などを食べ、大きく成長する。しかし、細胞分裂は行わないので、「変形体」はあくまで一つの細胞なのである。一番上の写真は、まさに粘菌の「変形体」でこれが一つの細胞なのである。これが地面を移動し次々にエサを飲み込み成長する。手のひら以上の大きさになることも珍しくないそうである。ちなみに、下の写真は左側が6月10日8時撮影で、右側が翌日の8時に撮影したものである。丸々1日で変形体は確かに広がっている。

しかし、ここまでは「あれ?移動してるみたいだね」「やっぱり生きてるんだね」と感動はしたものの、この後の激変を予想することはできなかったのである。



6月10日8時



6月11日8時



6月11日15時。「粘菌はどうしてるかな」と箱を覗いてみてびっくりした。今までは、ねばねばしたアメーバ状だったのが、クリーム色の**こぶ**のようなものがいたる処にできている（左の写真で、上から1枚目と2枚目）。どうやら、「孢子」をつくるための「**子実体**」を作り始めているようだ。それにしても、朝見たときとでは、まるっきり姿が変わっている。「粘菌恐るべし！」これは侮れないなと思い始めたのがこの頃だった。



同日19時。念のため、帰宅前にちょっと確認しておこうと箱を開けると、またまた形が変わっているではないか（上から3枚目と4枚目）。前に見たときには丸いつぶ状の単体がくっついていてのように見えていたが、今度はまるで**白い花**が咲いたようである。よく見ると、枝分かれした細かいつぶつぶがたくさんついている。わずか4時間の間にこれだけの変化が起こっていたのである。おそらく、今夜はさらに大きな変化が待ちかまえているのであろう。そんな思いを胸に家に帰ることにした。



12日朝8時。「今日は何が起こっているのだろう。」実は、昨日、粘菌の図鑑を購入し、似たような粘菌の写真をさがしてみた。それによると、この粘菌はクサムラサキホコリなのではないかとにらみをつけていた。だとすると、黒く細長い帯のような「子実体」を作っているはずであった。

しかし、箱の中にあったものは、真っ黒ではあったが、もっと地味な感じの子実体の姿であった（下の2枚の写真）。さらによく見ると、地面に生えている草の上にも子実体ができている。その形は、あえて表現すると、何かの糞のような感じである。昨日の「白い花」が、今日は「糞もどき」で、その落差も結構大きかった。



なお、この写真を県内で粘菌に詳しい赤羽先生にみてもらったところ、粘菌は「子実体」を見ないと同定（種名の判定）はできないが、この写真からすると、変形菌の**モジホコリ属**の一種であろうというお話であった。粘菌のおもしろさと奥の深さを見せつけられた数日間であった。

